

<p>糸魚川市健康増進課：母乳育児応援事業</p> <p>住所 〒941-8501 糸魚川市一の宮 1-2-5 (TEL)025-552-1511 (FAX)025-552-8250 (E-Mail)mail@city.itoigawa.niigata.jp (ホームページ)http://www.city.itoigawa.niigata.jp/ 人口 50,908 人(出生数 355 人) 母子保健担当者：保健師 栄養士、全保健師数 14 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p>
事業の背景	<p>当地域での母乳育児割合が低い現状にあり、肥満児割合の増加、愛着形成への困難さに影響があると考えた。また医療機関での母乳育児指導が十分でない現状もあった。</p>
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	<p>母乳育児割合を増加させることにより</p> <p>①母子の愛着形成を充実させる</p> <p>②正しい生活習慣の基礎を作り、肥満児等の減少につなげる</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標あり
対象	新生児 乳児 父親 母親 妊産婦 家族 関係者・関係機関
実施期間	平成 14 年 4 月 ～ 平成 22 年 3 月 8 年計画
実施内容	<p>妊婦面接・マタニティスクール等での指導の強化 新生児訪問・2か月児訪問での統一した指導 関係者連絡会議(助産師・保健師・栄養士・保育士)の開催</p> <p>■既存事業の工夫 ■相談機能の強化 ■ネットワークの推進 ■マニュアル・ガイドラインの作成 ■人材育成の強化(研修等)</p>
協力機関	保健センター・保健所 子育て支援センター 保育園 幼稚園 病院 診療所
住民参加状況	計画から参加
従事者内訳	保健師 栄養士 助産師 保育士
補助金・助成金	なし
事業の評価	平成13年度には30%だった母乳育児割合が、平成17年度には50%となった。

今後の課題	医療機関での指導の継続及び強化。 祖母等家族への指導。
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	母乳
コメント	<p>ここに注目！ 妊婦面接・マタニティスクール等での指導の強化、新生児訪問・2か月児訪問での統一した指導、関係者連絡会議(助産師・保健師・栄養士・保育士)の開催など、地域の関係機関を有効に活用して、母乳育児を中心としての子育て支援を推進する。数値による事業評価が明示されている。</p> <p>エビデンスは？ 「平成13年度には30%だった母乳育児割合が、平成17年度には50%となった。」と短期的な効果が示されている。ただ、母乳育児割合が上昇した時点でぜひ確認しておきたいことは、将来に向けて定めてある目標数値が、住民や関係者の合意であるのかの点である。母乳育児支援には、さまざまな理由から、母乳で育てたいのにできないグループへの配慮も必要である。地域の子育て支援策や就労状況などによって、現実的目標とすべき数値は地域独自に決まるはずである。母乳育児割合の上昇が確認された今、目標確認やなぜ上昇したのかとの要因を分析するための地域の関係者との綿密な連携が、この活動を地域に根付かせるために必要な手段といえよう。</p>

平成17年度地区別母乳等栄養割合

	0～2か月未満			2～4か月未満												
	糸魚川	能生	計	糸魚川	能生	計										
母乳	123	56.2%	13	30.2%	32	65.3%	168	54.0%	125	57.1%	10	23.3%	30	61.2%	165	53.1%
混合	75	34.2%	21	48.8%	17	34.7%	113	36.3%	51	23.3%	20	46.5%	17	34.7%	88	28.3%
人工	21	9.6%	9	20.9%	0	0.0%	30	9.6%	43	19.6%	13	30.2%	2	4.1%	58	18.6%
計	219		43		49		311		219		43		49		311	



おんぶのおすすめ



背が低くおんぶが難しいおんぶ、おんぶの正しいおんぶの仕方、おんぶのメリット・デメリット、おんぶの注意点などをお知らせします。

- ★ 背筋力が強くなるおんぶ・・・妊娠、子育て、生活をするに時勢力が大切。赤ちゃんは抱かれないと自分で抱母さんの背中を仰ぐことで背筋力を高めます。
- ★ お母さんといっしょにおんぶ・・・おんぶという気持ちで育ちます。家事をしながらおんぶがけは、赤ちゃんの言葉の芽を育てます。
- ★ 赤ちゃんと一緒に家族・・・お母さん赤ちゃんが家族に溶け込みます。

母乳子育てはゆっくりにのんびりと

～糸魚川市では母乳子育てを応援しています～

母乳は

- ① あかちゃんが病氣にかかりにくくする成分を含んでいます。
- ② お母さんと赤ちゃんのふれあひタイムにはいります。
なごいりごとがたっぷりあひります。
- ③ 経済的にもとってもお得。
でも実際おっぱいにしても、困ったことに色々かかる方も多いようです。
よくあるおっぱいの疑問を点検してみましょう。

① 母乳が足りていないのでは・・・と、とても心配です

母乳が足りている目安としては

- (1) 体重が1日18g以上増えていければ大丈夫です。
* 18g以下でも次のような場合、様子を見ます。
- (2) 赤ちゃんが元氣!
- (3) おむつを替えるたびに十分濡れている
- (4) 母乳を上げている時、乳首がじんじんする感じがある。
ぐすったら、おしゅぶりがでなく、おっぱいをあげておきましょう。

② 母乳をあげてもすぐに泣いてしまします。足りていないのでは・・・

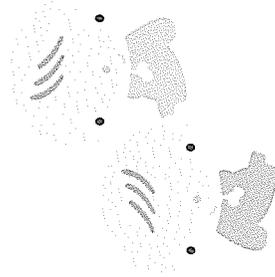
母乳はミルクに比べてとても消化が早いので、短時間ですぐまた母乳を欲しがります。母乳の場合授乳間隔30分～1時間ということも珍しくありません。胃袋が成長するに従って、間隔は段々伸びていきます。育児書にある授乳間隔3～4時間というのはミルクを基準としています。

③ 「1～2か月からの赤ちゃん用果汁」を売っていますが、あまり飲みません。

母乳中心の赤ちゃんには、果汁も白湯もいりません。水分補給や味の訓練は母乳で十分だからです。(母乳は出ている間中、味の変化があります)お風呂上りの水分補給も母乳でOKなのです。

ミルクの方も果汁は必要ありません。白湯、麦茶で結構です。果汁は肥満の原因のひとつです。どうしても・・・という場合は白湯で5～6倍に薄めてあげましょう。

困ったことがあれば、地区担当保健師、親子健康係・保健師にご相談ください
糸魚川市健康増進課 552-1511 内線 2178



<p>大田南地域行政センター 地域健康課 : コアグループ(外国人母子の集い)</p>	
<p>住所 〒144-0053 東京都大田区蒲田本町 2-1-1 (TEL)03-5713-1701 (FAX)03-5713-1509 (ホームページ) http://www.city.ota.tokyo.jp/ota/minami/kenkou</p>	
<p>人口 194,448 人(出生数 1,686 人)</p>	
<p>母子保健担当者: 事務 保健師、全保健師数 12 人(母子保健担当保健師数 12 人)</p>	
<p>区分: 政令市・特別区(本庁・保健所等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p>
事業の背景	<p>管内地域性として、アジア圏出身の外国人が多い。外国人の母親達は文化の違いや相談相手がない現状から子育てが孤立しがちであった。安心して育児を語る場、相談し合う場、お友達づくりの場を提供する。(子育てネットワークを図る育児支援)</p>
提案者	<p>母子保健担当者</p>
事業のねらい・目標	<p>①健診、訪問から抽出し勧奨するとともに、児童館、外国人登録窓口にも提示PRをお願いする ②参加親子が交流でき、楽しい場を体験し、継続参加をすることで友人づくりのきっかけとする ③個別相談を通じ、不安解消を図る ④親子の健康に関するもの、外国人向けの情報等を提供する</p> <p>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	<p>数値目標なし</p>
対象	<p>乳児 幼児 母親</p>
実施期間	<p>平成 10 年 12 月 ~ 未定</p>
実施内容	<p>・レクレーション(親子リズム体操、手遊び、手作り工作、おもちゃ)・フリートーク・個別相談 ・センターからの情報提供(親子の健康、外国人向け情報等) ・保育については、現在民生委員が2名協力、通訳については、有償ボランティア2名、レク児童館職員2名協力</p>
事業内容	<p>■ネットワークの推進 ■その他</p>
協力機関	<p>地域のボランティア その他(児童館職員)</p>
住民参画状況	<p>その他(民生委員)</p>
従事者内訳	<p>保健師 その他(児童館職員(児童指導)、民生委員、通訳ボランティア)</p>
補助金・助成金	<p>国 なし</p>

事業の評価	<p>参加者の状況と満足度、不安等について調べ、運営に役立てる。</p>
今後の課題	<p>同じこも外国人親子への働きかけ。参加者が主体性を持ち、交流を深め、仲間づくりの支援をする。</p>
取り組みの事業に関するホームページ	<p>http://www.city.ota.tokyo.jp/ota/minami/kenkou</p>
キーワード	<p>子ども 育児不安</p>
コメント	<p>***** コメント ***** 母子保健は多様なニーズに応じた活動が必要であるが、中でも外国人親子に対する子育て支援は昨今その重要性を増している。言葉の問題や文化の違いからくる誤解や不安を受け止め、必要な情報を提供して、親子を支える活動が必要となる。さらに、外国人親子が孤立しないように地域との交流を促進できるようにコーディネートすることも不可欠である。これを事業化するには通訳や親子の母国の状況に対する情報収集など通常の事業に加えて多額の資源を必要とする。本事業はそれらを克服して、平成 10 年から継続して実施していることは高く評価できる。他の地域でも同様な事業がおこなわれているが、外国人親子が特別扱われることなく、地域に受け込めるように、地域への理解を求める啓発も重要である。 (ZY)</p>



<p>豊明市健康課(保健センター)：ひまわりひろば</p> <p>住所 〒470-1121 愛知県豊明市西川町島原11-14 (TEL)0562-93-1611 (FAX)0562-93-0611 (ホームページ) http://www.city.toyoake.aichi.jp/ 人口 68,093 人(出生数 623 人) 母子保健担当者：保健師、全保健師数 9 人(母子保健担当保健師数 4 人) 区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p> <p>少子化とともに核家族化、近隣関係の希薄化がすすみ、従来のような地域での声かけや見守りが難しくなっている中で、行政とNPOがそれぞれの持ち味を生かし、連携を図りながら、地域の子育てを支援していく必要がある。</p>
事業の背景	
提案者	住民 母子保健担当者
事業のねらい・目標	<p>子育て支援グループによる現役母親の視点を生かした企画。地域での子育て支援を図るとともに子育て支援に関する行政とNPOとの協働をモデル的に行う。</p> <p>親子での遊び、さまざまな人との交流、学習会を通して、子どもと親相互の健やかな育ち合いを支援する。</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標なし
対象	幼児 母親
実施期間	平成 16 年 4 月 ～ 未定
実施内容	<p>地域で活動している子育て支援団体への委託事業。6回1コースの講座で、大学教授、子育て支援 NPO による講義やワークショップなどの内容。(各回の内容により、託児あり。)1 歳児親子20組程度を対象とする。</p>
事業内容	<p>■ネットワークの推進</p> <p>地域のボランティア</p> <p>実施主体側として</p> <p>保健師 その他(子育て支援ネット ひまわりっこ)</p> <p>市町村</p>
協力機関	
住民参画状況	
従事者内訳	
補助金・助成金	

事業の評価	<p>親子での遊び、さまざまな人との交流などにより、仲間づくりや日頃悩んでいることの共有が図られる。また、託児により母親自身がリアリッシュな機会にもなっている。ひまわりひろば卒業後、自主的にサークルを立ち上げ、母親同士のつながりを持っている。</p>
今後の課題	<p>18年度から現役母親が主体である子育て支援団体への委託事業となったため、行政との連携を図りつつ、ひまわり広場の運営が安定すること。また、行政として NPO 支援を継続していく。</p> <p>また、ひまわり広場への参加希望が多数となっており、抽選にて参加者を限定しているため、実施方法を検討しつつ、より多くの母親が参加できる場とし、地域全体で子育てをすすめる環境づくりのきっかけとしていきたい。</p>
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	NPO 子育て支援団体
コメント	<p>***** コメント *****</p> <p>母子保健活動は行政のみならず多くの地域住民に支えられている。母子専門員、母子愛育会、食生活改善推進員など既存の住民組織に加えて、最近では、当事者が組織する子育てNPOの活動が活発になっている。子育て NPO に対する行政支援は多いが、行政が事業を委託する例は必ずしも多くない。多様なニーズに応える子育て支援を行うには行政が直接実施する事業だけでは不十分であり、このような子育て NPO との連携は一つの解決策である。本事業はそのような委託事業であり、子育て支援団体へ委託して、学識経験者や子育て支援 NPO による多彩なプログラムの実施している。また、ひまわりひろば卒業後に自主的にサークルを立ち上げて、母親同士のつながりを持っていることも高く評価できる。</p> <p>(ZY)</p>



<p>津市中央保健センター：母子保健推進員活動 ③養成研修・継続研修</p> <p>住所 〒514-8611 三重県津市西丸之内 23 番 1 号 (TEL)059-229-3310 (FAX)059-229-3344 (E-Mail)229-3310@city.tsu.lg.jp (ホームページ)http://info.city.tsu.mie.jp/ 人口 291,407 人(出生数 2,531 人)</p>	
<p>母子保健担当者：保健師、全保健師数 45 人(母子保健担当保健師数 14 人) 区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p> <p>公募制で依頼し、期間については解職要件に該当しなければ特に期限を設けていないため、登録前と登録後の理解度に差があることから、それぞれに合わせた研修の必要性がある。また、対象となる親子の育児環境・価値観等の多様化がすすんでおり、市の依頼するボランティアアとして、きめ細かく柔軟な対応が求められている。</p> <p>その他(チャックなし)</p>
事業のねらい・目標	<p>①母子保健推進員として活動するうえで必要な知識・技術を身につける</p> <p>②推進員同士の交流を図り、士気を高める</p> <p>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標なし
対象	その他(母子保健推進員)
実施期間	平成 18 年 4 月 ～ 平成 21 年 3 月 3 年計画
事業内容	<p>新規者研修・・・</p> <p>1 回目)母子保健推進員活動について</p> <p>2 回目)人との関わりかたについて</p> <p>3 回目)面接技術について</p> <p>4 回目)教室見学</p> <p>継続研修・・・</p> <p>1 回目)母子保健推進員活動の確認、母子保健情報について</p> <p>2 回目)面接技術について</p> <p>3 回目)県主催研修</p> <p>4 回目)交流会</p> <p>■既存事業の工夫 ■ケアシステムの構築 ■マニュアル・ガイドラインの作成</p> <p>■人材育成の強化(研修等)</p>
協力機関	
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師
補助金・助成金	なし

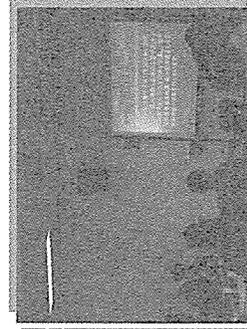
事業の評価	<p>・推進員の出席状況</p> <p>・参加推進員へのアンケート調査</p>
今後の課題	<p>母子保健推進員の養成(新規)は市が実施主体となって行っていくが、今後、母子保健推進員の中からリーダーとなる人材の発掘を行い、協議会設立へと動きかけていく。そのうえで継続研修や訪問は会への委託事業としていきたい。</p>
キーワード	記入なし
コメント	<p>ここに注目！育児に関する情報が氾濫し、若い母親の育児や行政サービスに対する意識も変化している。母子保健推進員が身近な地域の相談者として信頼されるためには個人的な体験だけに基づく指導ではなく面接技術を身につけ、母親の声をしっかりと聴く姿勢が求められる。津市では新規者研修と継続研修を分け4回シリーズで計画的に実施しており、内容も人との関わり方や面接技術が重視したプログラムとなっている。</p> <p>エビデンスは？母子保健推進員の研修については、県や保健所等で個別のテーマについての研修会は多く行われているが、養成において標準的なプログラムや時間数はとくに規定されていない。母子保健推進員養成講座として身体発達、心理発達、家族関係等のテーマについて9回コースの講座を設け、さらに「おめでどう訪問」を行う母子保健推進員に対してはコミュニケーション技法についてロールプレイをとり入れた講座を行っている事例がある(豊田市)。研修プログラムについては、訪問等の業務を担う際の確保の観点やボランティアとして主体的な活動ができるための支援の観点等から、今後検討する必要がある。なお(社)母子保健推進員会では毎年、煙やか親子21全国大会及び全国 10 数方所で母子保健推進員研修会を開催している。(TN)</p>



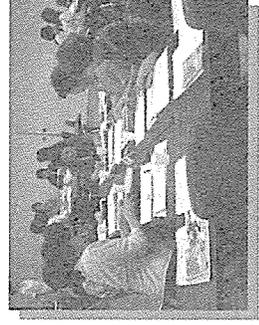
海津市課長挨拶



海津市担当者より説明



津市母子保健推進員より説明



グループワーク



グループワーク



発表

<p>大阪府豊中保健所：未熟児交流会</p> <p>住所 〒561-0881 大阪府豊中市中桜塚4丁目11-1 (TEL)06-6849-1721 (FAX)06-6846-2510 (E-Mail)toyonakahoken@sbox.pref.osaka.lg.jp (ホームページ)http://www.pref.osaka.jp/toyonakahoken/ 人口 388,065人(出生数 3,447人) 母子保健担当者:事務 保健師、全保健師数 18人(母子保健担当保健師数 5人) 区分:都道府県保健所</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p> <p>極低出生体重児の育児は医療上のリスクをはじめ長期の親子分離等から育児不安も大きい傾向がある。周産期医療機関との連携により退院後早期からの家庭訪問をする個別援助と共に親の孤立を防ぐための親どうしの交流の場を設け、仲間づくりや地域の子育て支援の取り組みに繋がる集団援助を実施している。</p>
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	<p>①極低出生体重児の発育・発達の特徴と育児知識・情報の提供により育児不安の軽減を図る。</p> <p>②親どうしが交流する場を提供することにより、仲間づくりのきっかけ作りをする。</p> <p>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</p> <p>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標なし
事業内容	<p>対象 乳児 幼児 父親 母親 (概ね1500g未満の児とその親)</p> <p>実施期間 平成13年4月～未定</p> <p>＜方法＞</p> <p>①対象:概ね1500g未満の児とその親</p> <p>②案内:郵送および保健師の電話による勧奨</p> <p>③保育:親が心置きなく交流ができるように子どもは保育士、看護師が担当</p> <p>＜プログラム＞</p> <p>①親どうしの懇談会</p> <p>②先輩ママの参加する交流会</p> <p>③臨床心理士による極低出生体重児についての話</p> <p>④保育士による「手遊び」の指導</p> <p>⑤極低出生体重児の育児と地域子育て情報提供等</p> <p>■ネットワークの推進 ■相談機能の強化</p>

協力機関	子育て支援センター 公立医療機関NICU看護師
住民参画状況	なし
従事者内訳	保健師 保育士 その他(臨床心理士、看護師)
補助金・助成金	都道府県
事業の評価	<p>＜方法＞</p> <p>①交流会出席状況</p> <p>②交流会での親子の様子</p> <p>③事後の親どうしのつながり</p> <p>④地域の子育て支援事業への参加状況</p>
今後の課題	<p>①交流会プログラムの工夫、改善による内容の充実化。</p> <p>②周産期からの医療・保健・子育て支援センターの連携による継続した相談・育児支援機能を強化し養育問題の防止を図る。</p>
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	未熟児交流会
*** コメント ***	<p>ここに注目！未熟児を持つ保護者の交流会に、出産病院のNICU看護師の参加があることに注目したい。出産時から保護者に関わっている看護師の参加により、保護者が参加しやすくなるのが期待される。さらに、未熟児を直接扱うNICUの現場経験に基づく助言は、母親の育児不安解消に大きく寄与すると思われる。医療との連携により、出産時からのとぎれない支援を実現する事業として評価したい。(HN)</p>

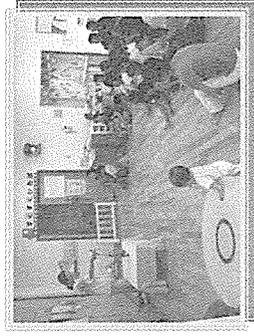


<p>王寺町保健センター：特技ボランティア登録・派遣</p> <p>住所 〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 2 丁目 2-1-501 (TEL)0745-33-5000 (FAX)0745-33-5001 (E-Mail)hoken@libell-oji.com (ホームページ)http://www.town.oji.nara.jp/ 人口 23,367 人(出生数 211 人) 母子保健担当者：事務 保健師 栄養士 歯科衛生士 その他(医師、歯科医師、臨床心理士、保育士、眼鏡士、助産師、看護師) 全保健師数 8 人(母子保健担当保健師数 7 人) 区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p>
事業の背景	<p>1. 王寺町に今までなかったから 2. 子どもたちが多様な経験を 3. 特技を持った人たちをを活かし活躍する場をつくる 4. 世代間交流になる</p>
提案者	住民
事業のねらい・目標	<p>特技ボランティアを募集し、ボランティアの特技や利用者の要求に応じて乳幼児の集まりの場に派遣する</p> <p>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標あり
対象	父親 母親 家族 その他(すべての住民)
実施期間	平成 15 年 4 月 ～ 平成 20 年 3 月 5 年計画
事業内容	<p>1. 子どもと親の集まりに目的ができ、活性化 2. 町内の人たちのコミュニケーションが増える 3. 特技ボランティアの人たちに対する尊敬の念を養う 4. 参加する人たちの幅が広がる 5. 登録したボランティアが生きがいを感じる</p> <p>■個人支援や集団支援のツール開発 ■ネットワークの推進</p>
協力機関	保育園 幼稚園 公民館 老人クラブ その他(全住民)
住民参加状況	計画から参加
従事者内訳	保健師 その他(看護師・栄養士・児童民生委員・保育士・住民)
補助金・助成金	なし

事業の評価	
今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	http://www.town.oji.nara.jp/
キーワード	特技 ボランティア
*** コメント ***	<p>ここに注目！前回レポート 2006 では、ちびっこクリーン活動が取り上げられており、ゴミに関するマナーを使って、地域の中での子育て支援を行っていた。今回は、特技ボランティアを住民から募集し、その特技や利用者の要請にしたがって、ボランティアを乳幼児の集まりに派遣するという事業を取り上げた。前述の事業と同様に、地域力をうまく活用して子育て支援をおこなう事業であり、その視点は評価できる。今後、ボランティア数などによる評価が待たれるところである。(KS)</p>

H17年度 特技ボランティア登録者

年齢	特技内容	職業
84歳	別に特技はございません。子育ての経験と折り紙など楽しんでまいります。子どもさんには難しいと思います。	
74歳	マジック	
74歳	ハーモニカ演奏	
69歳	読み聞かせ	俳優
66歳	手遊び・リズム・お話し	元幼稚園教員
66歳	お手玉	
62歳	シヤボン玉遊び	
60歳	絵本の読み聞かせ・紙芝居・民話の語り・舞(日舞)	
59歳	布の創作玩具・布絵本など・作品のみ買ってもら	
58歳	歌(童謡)	
58歳	絵本の読み聞かせ	
57歳	人形劇サークル(ちろりん村)	
56歳	ペープサート・人形劇・パネルシアター・エプロンシアター・ストーリーテリング	
54歳	フルート演奏	
52歳	絵本の読み聞かせ	
52歳	お話し・わらべうた・手遊び	
50歳	音楽を通して障害児・一般児(多動・人見知り・集中力アップ・情緒不安定など)・老人他に対してミュージックケアを主とする人々がその人らしく生きる事に歌・楽器・手遊び・リズム体操の力を使って効果を出す。多くの人と楽しいひとときを過ごす	ピアノ講師・音楽療法
41歳	歌・英語	



御杖村福祉課 御杖村保健センター：子育てボランティア	
住所 〒633-1302 奈良県宇陀郡御杖村菅野 1581 (TEL)0745-95-2828 (FAX)0745-95-3667 (E-Mail)fukushi@vil.mitsue.nara.jp	
人口 2,385 人(出生数 11 人)	
母子保健担当者：保健師、全保健師数 1 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分：市町村(保健センター等)	
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減 ■健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)
事業の背景	H9年母子保健計画のアンケートの結果、地域で共に助け合って子育てしていく「子育てボランティア」への参加意欲が確認された。子育て交流会での子どもの見守りからスタートした。次世代育成支援計画の中で「安心して子育てができる」というキーワードから、緊急時の一時あずかり事業が始まった。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	誰もが地域の子育てに関われる意識、体制をつくっていく。 <ul style="list-style-type: none"> ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	数値目標なし
対象	母親 関係者 その他(住民一般)
実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 未定
実施内容	子育て交流会 健診時の子どもの見守り 緊急時の一時あずかり 保育所での食育健康教室の開催 <ul style="list-style-type: none"> ■既存事業の工夫 ■ネットワークの推進
協力機関	保健センター・保健所 地域のボランティア その他(社会福祉協議会・国保連合会)
住民参加状況	計画から参加
従事者内訳	保健師
補助金・助成金	都道府県

事業の評価	一時あずかりの件数 保護者の声、ボランティアの声 事業展開の広がり
今後の課題	ボランティア人数の増加
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	交流・安心・連携
コメント	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ ここに注目！子育てボランティアに対する参加意欲を、地域に対するアンケートで確認し、そこから健診時の子どもの見守り、緊急時の一時預かりなどの事業をボランティアによっておこなっている。利用した保護者の声や、利用件数などでしっかりと評価を行っている。ボランティアの広がりによって、子どもや保護者に対して、どのような効果が現れたのかを今後評価していけば、さらに意義が深まるだろう。(KS)

ことごとく一時あずかりについて 目的 1. 保護者の一時的な育児希望に応えられる場と人材をつくり、安心して子育てできるしくみをつくる。 2. 一時保育の内容について 緊急時の病気や受診、冠婚葬祭などで家族での保育が、単的に困難 非定型的保育：講義会、リフレッシュ参加など 3. 見守りの年齢について 特に制限なし 4. 保育時間及び場所 時間：午前 8：30～午後 5：00 (土日祝、祝日、及び年末年始は除く) 場所：保健センター 5. 一時あずかりの担当 保健福祉課に登録された子育てボランティアのうち、「保健センターでの一時あずかり」に希望された方：9 人(平成 18 年 12 月 31 日現在) 一時あずかりからは、必ず 2 名以上のスタッフで行う 6. 安全と健康管理について ① 見守りの受け手は、保護者が行う ② 一時あずかり当日、見守りの健康状態を把握する(問診票に保護者が記入) ③ 一時あずかり中の事故等があった時は、迅速処置をとり、保護者に連絡する 7. 利用料 1 時間 100 円；帰るときに支払っていただきます。 8. 申込みについて 申込みの受付は、保健福祉課で行います。 時間外の申込みについては留守対応です。 利用希望のある方については、前もって一時あずかり登録申請書に必要事項を記入のうえ、提出してください。 9. 当日、保護者で準備して頂くもの ① 昼食はきむらひ場合は、お弁当、お茶 ② 必要なおやつ ③ 着替え、靴オムツ	 
---	--

<p>下市町保健センター(健康増進課)： 壮年期の子育て支援プログラム</p>	
<p>住所 〒638-0041 奈良県吉野郡下市町下市 1962 (TEL)0747-52-0001 (FAX)0747-52-1968</p>	
<p>人口 7,788 人(出生数 33 人)</p>	
<p>母子保健担当者： 保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</p>
事業の背景	<p>50～69歳の対象者は、自分の孫の育児支援から手が離れ、自分の家庭に限定されない視野を持っていると考えられ、気力・体力も十分にあり、地域における育児支援にも協力が得られると期待される。このため、対象者の育児支援に関するアンケートを行うことにより、地域に合わせた育児支援の方法を検討する資料とする。</p>
提案者	<p>母子保健担当者 その他</p>
事業のねらい・目標	<p>記入なし ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</p>
数値目標	<p>数値目標なし</p>
対象	<p>その他</p>
実施期間	<p>不明～未定</p>
実施内容	<p>50～69歳の女性を対象に、乳幼児の育児に焦点をあてて、育児支援に関する意識調査”下市育児支援に関するアンケート”を実施し、地域にあわせた育児支援の方法を検討する。 平成 14 年にアンケートを実施。6 割以上が手助けをしてもよいと思う思いがあり、そういう人たちは地域行事にもよく参加し活動的である。特に祭りを通して地域とつながりをもっていたようである。</p>
協力機関	<p>■その他(記入なし) 保健センター・保健所 大学・研究機関 その他(京都教育大学)</p>
住民参画状況	<p>その他(記入なし)</p>
従事者内訳	<p>保健師 その他(記入なし)</p>
補助金・助成金	<p>その他(記入なし)</p>
事業の評価	<p>アンケートの結果、壮年期の人たちは育児支援に前向きであるが、今と昔の育児の違いを感じ手をさしのべることにまだまっていることがわかった。また、育児支援に積極的な人ほど祭りという場を通して人とのふれあいを多く持っていた。現在、少子化、核家族化等でふれあいが少なくなっている中、人々とのふれあいを通じて子育てでもより前向きにしていけることを改めて考えさせられる結果であった。</p>

今後の課題	<p>地域育児支援のできる人材の確保、また育児支援ボランティアを作った場合の運営方法、支援方法</p>
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	<p>既存データ 育児支援 壮年期</p>
コメント	<p>*****</p> <p>親にとって子育てのしやすい環境を作ったり、また健やかな子どもを地域で育てていくためには、育児を支援する体制を地域で整える必要がある。そのためには、子育て経験があり、知識・経験の豊富な壮年期の女性の協力を得るのも一つの有用な方法である。この取り組みは、壮年期の女性が、地域における育児支援に協力することについてどのように考えているかを調査したものである。育児支援にあたって、地域の壮年期の女性の方に着目した点で興味深い。アンケート調査より、約6割の壮年期の女性が若い母親に対して育児に関する援助・助言をしてもよいと思うことが明らかになった。今後、これらの女性の力をどのように活用するかについて検討し、具体的な活動につなげていくことが期待される。(TT)</p>



檜原市健康増進課：両親学級	
住所 〒634-0065 奈良県檜原市萩傍町 9-1 (TEL)0744-22-8331 (FAX)0744-24-9124 (E-Mail)kenko@city.kashihara.nara.jp	
人口 125,719 人(出生数 1,145 人)	
母子保健担当者：保健師、全保健師数 12 人(母子保健担当保健師数 4 人) 区分：市町村(保健センター等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	少子化・核家族化による家族形態の変化や地域社会の変化に伴い、家庭や地域における子育て機能が低下し、子育てに不安や悩みを抱く親が増加している。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	父親・母親に子どもを持つ親としての意識を育成するとともに、特に社会全体の父親の育児参加への認知度を高めたい。また、すでに子育て経験のある夫婦と、より若年の夫婦間の交流を図り、教材や講話だけでは伝えきれない子育ての苦労、醍醐味、価値を理解し、考えを深めたい。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	数値目標なし
対象	父親 母親 妊産婦 関係者
実施期間	平成 17 年 11 月 ～ 平成 20 年 3 月 3 年計画
内容	・オリエンテーション「市の子育て情報の紹介」 ・助産師による講話「父親の役割」 ・沐浴実習を一組ずつ体験・妊婦体験 ・ビデオ鑑賞「赤ちゃんのすばらしき生命」 ・人形をいとおむつ交換実習 ・乳児とその親を対象に保育士が赤ちゃんができる遊びを紹介 ・妊婦及びその夫が、先輩夫婦と交流し、意見交換をしたり、子どもを抱いたり、あやしたりして世話をするふれあい体験を行う ・アンケートとメッセージの記入 ■既存事業の工夫 ■その他(仲間づくり)
協力機関	その他(児童福祉課)
住民参画状況	その他(教室終了後、アンケート結果より内容検討)

従事者内訳	保健師 助産師 保育士
補助金・助成金	なし
事業の評価	毎回、終了時にアンケートを実施。いろいろな項目で良かったという評価が多い。
今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	父親の育児参加
キーワード	
**** コメント ****	母親のみでなく父親も対象とした両親学級は様々な自治体で行われている。中でもこの取り組みは、両親学級の場において妊婦およびその夫が、子育て経験のある先輩夫婦と交流したり、乳児とのふれあい体験を行うことができるようになっており、充実した内容となっている。
	少子化・核家族化のために、出産前の夫婦が育児中の夫婦と交流を持ったり、実際に乳児に接することのできる機会は減少している。子育て中の先輩夫婦と交流を持ったり、実際に乳児と触れあうことで、育児の楽しみや苦労話を直接聞いたりして出産・子育てについて教材や講話からは伝わらない内容を知ることができ、これらの育児について考えるよい機会になっていると思われる。(TT)



東吉野村住民福祉課：子育てサロン	
住所 〒633-2492 奈良県吉野郡東吉野村大字小川 99 番地 (TEL)0746-42-0441 (FAX)0746-42-0446 (E-Mail)miyosino@aito.ocn.ne.jp	
人口 記入なし (出生数 記入なし)	
母子保健担当者：保健師、全保健師数 1 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分：市町村(保健センター等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	少子化の進む本村において、入園するまで同じ年頃の子同士、親同士が知り合う機会が少なく、育児について悩みを共有したり、情報交換しにくい状況。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	同じ年頃の子を持つ母親同士が交流し、育児に関する様々な悩みを共有したり、情報交換できる。また、母親同士の仲間づくりを進め、自主的に活動できるサークルの形成を目指す。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	数値目標なし
対象	乳児 幼児 母親 妊産婦
実施期間	平成 17 年 6 月 ～ 未定
実施内容	毎月のサロンで子どもの成長写真を撮り、お母さんに手作りアルバムを作ってもらっている。
事業内容	■既存事業の工夫 その他(民生委員(主任児童委員))
協力機関	実施主体側として
住民参画状況	保健師
従事者内訳	市町村
補助金・助成金	
事業の評価	サロンに来ている母親同士で自主的に交流する様子が見られた。

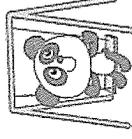
今後の課題	・子育てサロンに協力してくれる子育てサポーターの育成 ・育児サークルの形成
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	子育て、仲間づくり
コメント	**** コメント **** 現在、地域で人の交流が行われる機会自体が減っており、また少子化・核家族化の影響もあり、入園前の子どもを持つ母親同士が交流する機会が減少している。母親の育児についての不安や悩みを解消し、健やかな子どもを育てていくためには、育児については、育児についての体験や悩みを母親同士で共有することも重要である。母親同士の交流を目的とした「子育てサロン」「育児サークル」などは各地で行われているが、この取り組みでは毎月のサロンで子どもの成長写真を撮り、母親が手作りアルバムを作るという工夫を行っている。成長写真やアルバムの通して母親同士の会話が広がるのではと思われる。また、このようなサロン・サークルを実施する際、参加者を増やすために何か趣向を凝らすことも必要であり、その点で参考になる取り組みと思われる。(TT)

お母さんによる手作りアルバム



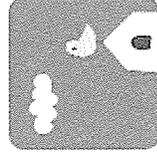
岩出市役所保健推進課：子育てサークル紹介	
住所 〒649-6256 和歌山県岩出市金池 92 (TEL)0736-61-2400 (FAX)0736-61-2411 (E-Mail)h_suishin@city.iwade-ig.jp (ホームページ) http://www.city.iwade.wakayama.jp/	
人口 51,283 人(出生数 538 人)	
母子保健担当者：事務 保健師、全保健師数 6 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分：市町村(保健センター等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	地域で母親たちの自主的な育児サークルが出来ているが、その情報がなかなか周知されていない状況で、健診でも、「子どもの友達が近くにいない」「育児サークルを紹介してほしい」といった声が聞かれる。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	育児サークルの支援を通して、地域全体の子育て力量を高める。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	数値目標なし
対象	乳児 幼児 母親
実施期間	平成 15 年 6 月 ～ 未定
実施内容	センター内の掲示板を一か所、育児サークル紹介用にし、希望する育児サークルに活動の PR ちらしの掲示を規定内で許可する。それを健診や健康相談で来所した子育て中の母親に見てもらい、自主的な交流につなげてもらう。
事業内容	
協力機関	■情報システムの構築 地域のボランティア
住民参画状況	その他(サークル代表者)
従事者内訳	保健師
補助金・助成金	なし
事業の評価	評価方法については検討中。

今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	子ども 育児不安
コメント	***** コメント ***** 掲示板を活用して、育児サークルの紹介、育児サークル相互の交流に役立てている事例である。一般的に、育児サークルから依頼や希望があった場合に、他の掲示物と混在して、保健センター内の掲示板を使ってもらっている市町村は多いと考えられる。しかし、育児サークル専用の掲示板を設けている市町村は、余り多くないと考えられる。大きな予算がなくても、他の市町村が参考にすることができると言えよう。なお、この掲示板を活用した支援を入り口としながら、今後ますます育児サークル支援の展開を行っていただきたい。(TO)



和歌山県紀美野町保健福祉課：絵本を介した育児支援事業	
住所 〒640-1121 和歌山県海草郡紀美野町下佐々1408-4 (TEL)073-489-9960 (FAX)073-489-6655 (E-Mail)hino-a@wakayama.kimino.lg.jp (ホームページ)http://www.kimino.wakayama.jp/	
人口 11,885人(出生数 60人)	
母子保健担当者：事務 保健師 栄養士、全保健師数 9人(母子保健担当保健師数 2人)	
区分：市町村(保健センター等)	
事業課題	■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減
事業の背景	「乳幼児健診の場で共感関係のとれない子どもが多い」「保育所などで人の話が聞けない子どもが増えている」「テレビ・ビデオを長時間見ている子どもたちが多い」「子どもの健やかな成長・発達わからない親が増えている」などの意見が関係者より出される。子どもの健やかな成長・発達を支援する一つの手段として、妊婦教室、子育て支援センター等で絵本の読み聞かせに取り組んできたが、より多くの親子に絵本にふれる機会を持つよう実施する事となった。
提案者	住民 母子保健担当者
事業のねらい・目標	親子のふれあい・人とのコミュニケーションを豊かにする。 感受性(喜怒哀楽、人への思いやり・愛情)や想像力を育てる。 ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する
数値目標	数値目標なし
事業内容	新生児 乳児 幼児 父親 母親 妊産婦 家族 平成 14 年 4 月 ～ 平成 19 年 3 月 5 年計画 以前より妊婦教室にて絵本の読み聞かせを実施しているが、14年度から1歳までの子どもを持つ保護者にも参加を呼びかけ、先輩ママと妊婦の交流もかねて実施(絵本の読み聞かせ・絵本の紹介)。また、妊婦教室修了者や母子保健推進員による新生児訪問時(全新生児対象)に絵本をプレゼントしている。15年度からは、年間4回の乳児健診(9～11か月児対象)時にボランティアによる絵本の読み聞かせを実施(18年度は日程が合わず実施できず)。11年度に開設した子育て支援センターにて毎月実施している遊びの教室(5か月～1歳6か月児対象)の教室、1歳6か月～保育所入所までの児対象の教室(2歳児)を対象の教室では保育士による絵本の読み聞かせを実施している。 ■既存事業の工夫 ■相談機能の強化 ■ネットワークの推進
協力機関	子育て支援センター 保育園 教育委員会 地域のボランティア
住民参画状況	実施主体側として

従事者内訳	保健師 児童福祉主事 保育士 その他(おはなしサークル「野いちごの会」)
補助金・助成金	なし
事業の評価	絵本に親しむ保護者の増加により、図書室の利用や、支援センターの絵本の貸し出しが増え、必要性は定着してきている。また、絵本をきっかけに子育てサークルや読み聞かせのボランティアが誕生したり、母親同士の交流が深まり、悩みなどお互いに解決できるようになり、ともに育つ関係ができてきている。(目標に対しての評価は、長期的に見ていく必要がある、今後の課題である。)
今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	子ども 育児不安
・*・*・コメント・*・*・*	子どもの健やかな成長・発達を目的として、絵本の読み聞かせを日常生活に取り入れるように支援するブックスタート事業は様々な自治体で行われるようになってきている。その中で、この取り組みは妊婦教室で絵本の読み聞かせを実施している点や1歳までの子どもを持つ保護者が妊婦教室に一緒に参加することで先輩ママと妊婦の交流が持てるようになってきている点で、充実した事業といえる。 また、実施した事業に対する評価もすっかり行われており、よく出来た事業といえる。(TT)



佐伯市直川振興局：親子の集い	
住所	〒879-3101 大分県佐伯市直川大字赤木 105 番地 (TEL)0972-58-2111 (FAX)0972-58-2811
人口	2,870 人(出生数 15 人)
事業課題	母子保健担当者：保健師、全保健師数 1 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分：市町村(保健センター等) ■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減 ■健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)
事業の背景	過疎化・少子化に伴い、近隣に同年代の子どものいる家庭がなく、母子ともに仲間ができてく い環境になってきたこと。
提案者	母子保健担当者
事業のねらい	・季節の遊びや親子のふれあいを通して、仲間づくりのきっかけとすることができる ・必要に応じて保健師や栄養士に不安や悩みを相談することができる
・目標	■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する
数値目標	数値目標なし
事業対象	幼児 父親 母親 家族
実施期間	平成 7 年 4 月 ～ 未定
内容	・対象は満 1 歳～就園前の在宅(保育所に通っていない)の幼児とその母親、家族。 ・毎月 1 回開催 ・季節に応じた遊び(節分、ひなまつり、川遊び、七夕、芋植え・芋掘り、クリスマス等) ・参加者間の交流 ・栄養士による手作りおやつ指導 ・必要時個別相談(保健師・栄養士による) ■相談機能の強化
協力機関	直川家庭教育推進協議会 その他(ほぼ毎回、主任児童委員さんが参加)
住民参画状況	保育サポーター(有償ボランティア・活動内容によりベビースタッフ業務を依頼)
従事者内訳	保健師 栄養士 事務職員

補助金・助成金	その他(大分県家庭教育支援総合推進事業)
事業の評価	参加者数・参加者の満足度・波及効果(事業開催日以外の交流等)の有無等により年度毎に評価。参加者は毎年固定傾向にあるが、参加した母親同士・子ども同士では事業をきっかけに繋がりができ、日常的に交流が見られるようになっている。
今後の課題	少子化に伴い対象者が減少してきている。他地域のグループとの交流等、開催方法の検討が必要。
取り組みの事業に関するホームページ	なし
キーワード	育児支援 仲間づくり
コメント	人とかかわって遊ぶことは、子どもの社会性を育てる。季節を肌で知るとは、子どもの身体性を育てる。いまでは、子ども会活動は低調な、もしくは廃止された地域が多いという。佐伯市では、月に 1 回という高頻度で、季節に応じた遊びを子どもたちにも取り組んでいる。自分の意になること、意にならないこと・・・様々なことを、季節を通じて周りの人とともに刻んでいく。その豊かな時間を想像できる取り組みである。(KM)

平成 18 年度「親子の集い」年間計画・実績

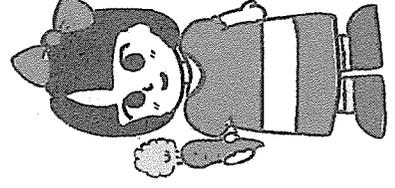
年	計画		実績				備考						
	月	日	活動内容	年	月	日		活動内容	参加者数 組 親 子 計				
18	4	27	こいのぼり作り	18	4	27	こいのぼり作り	3	3	4	7		
	5	16	外遊び		5	17	雨天・室内自由遊び	5	5	6	11		
	6	7	お芋植え		6	7	お芋植え	2	2	2	4		
	7	5	七夕飾り作り		7	5	七夕飾り作り	5	5	7	12		
	8	3	川遊び(宇目・直川合同)		8	3	川遊び(宇目・直川合同)	7	8	10	18	宇目地域より 1 組参加	
	9	6	手作りおやつ作り		9	6	手作りおやつ作り	6	6	8	14		
	10	5	外遊び		10	5	陶芸	9	9	12	21		
	11	1	お芋掘り		10	31	お芋掘り	10	11	11	22	宇目地域より 1 組参加	
	12	2	クリスマスケーキ作り		12	22	クリスマスケーキ作り	9	9	13	22	弥生地域より 1 組参加	
	19	1	11		風作り・風あげ	19	1	11	アンパンマン稲刈り	4	5	7	12
		2	2		節分豆まき		2	8	節分豆まき				0
3		2	ひなまつり	3			ひなまつり				0		
		年間延						60	63	80	143		

「健康日本21に含まれる母子保健に
関するテーマ」



<p>平泉町保健センター：健康家族の休甘日キャンペーン</p> <p>住所 〒029-4192 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 (TEL)0191-46-5571 (FAX)0191-46-2204 (E-Mail)hoken@town.hiraizumi.iwate.jp (ホームページ)http://www.town.hiraizumi.iwate.jp/ 人口 9,043 人(出生数 57 人) 母子保健担当者：保健師、全保健師数 6 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分：市町村(保健センター等)</p>		
事業課題	<p>■健康日本 21 に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p>	
事業の背景	<p>昭和 54 年から歯科医師の協力のもと幼児から中学生までの一斉歯科検診をはじめ様々な歯科保健事業に取り組んだ結果、WHO の「2000 年までに 12 歳児の DMFT を 3 本以下に」という目標を平成 4 年には達成した。しかし、子供の歯を予防するためには更に地域全体で予防に取り組む必要があると考え、毎週月曜日は甘い物を食べたり飲んだりしない日「休甘日」とするキャンペーンを開始した。</p>	
提案者	母子保健担当者 その他(国保歯科診療所医師)	
事業のねらい・目標	<p>毎週月曜日は甘い物を食べたり飲んだりしない日「休甘日」と定め、地域全体で予防に取り組むことを推進すると共に、食生活の乱れは生活習慣病を起こす誘因となるため正しい食生活を身につけ、健康的な生活を営むことを目標としている。</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>	
数値目標	数値目標あり	
事業内容	対象	その他(地域住民全て)
	実施期間	平成 9 年 4 月 ～ 平成 19 年 3 月 10 年計画
実施内容	<p>毎週月曜日は甘い物を食べたり飲んだりしない日「休甘日」と定め、防災無線や町広報等で町民に周知する他、各乳幼児施設、小中学校の夏季及び冬休み期間にはお便りを発行し、休甘日の推進に努めている。また、町内の幼稚園、保育所での 4・5 歳児歯科検診や 6 月の歯の衛生週間等に併せ、休甘日キャラクター「キュウちゃん」が登場する紙芝居などを使って歯にいいおやつを選び方や生活リズムに関する話やブラッシング指導など衛生教育を行っている。</p> <p>■その他(記入なし)</p>	
協力機関	保育園 幼稚園 学校 大学・研究機関 その他(国保歯科診療所)	
住民参画状況	その他(「休甘日」キャラクターを町民の方に作成してもらい、名称は公募し、「キュウちゃん」とした。)	
従事者内訳	保健師 栄養士 歯科医師 保育士 養護教諭	

補助金・助成金	なし
事業の評価	<p>地域全体が週に1度の「休甘日」を実行しそれを継続していくことは大変難しい面もあるが、これまで、継続して周知してきたことにより「休甘日」という言葉自体は、住民に広く知られるようになった。休甘日キャンペーンとしての数値目標はないが、健康ひらいてみ21計画によって「3 歳児及び 12 歳児の一人平均歯数」や「幼児期においておやつ時間の時間が決まっている者の割合」等、歯科に関する目標値を定めていることから、今後計画の見直しの際に事業の評価の一つとすると予定である。</p> <p>12 歳児の一人平均歯数:0.88 本 (平成 17 年度歯科検診結果より)</p> <p>事業がマンネリ化しないよう、各関係機関との連携を図りながら地域全体の歯予防の推進に努めていくことが望まれる。</p>
今後の課題	
取り組みの事業に関するホームページ	
キーワード	<p>歯科保健、休甘日</p> <p>***** コメント *****</p> <p>ここに注目！地域全体で歯に取り組む活動がうまくいっている事業であり、ポピュレーションアプローチの好例として注目します。「休甘日」のネーミングの良さに加えて、防災無線による周知や、休甘日キャラクター「キュウちゃん」の設定等、住民が楽しんでやっているのが感じられます。「休甘日」が、歯減少などの数値目標改善につながっているかどうかの評価はこれからですが、成果が期待されます。また、大人の休肝日とのジョイントも期待でき、子どもと大人が一緒に取り組める広がりも感じている事業です。このような活動は地域の財産の1つとして大事に育んでいきたいと思っています。(HN)</p>



休甘日キャラクター

キュウちゃん

<p>胆沢町健康福祉課(平成18年2月20日 市町村合併により奥州市胆沢区) ： 歯の健康づくりモデル事業</p> <p>住所 〒023-0401 岩手県胆沢郡胆沢町南都田字大持50 (TEL)0197-46-2977 (FAX)0197-46-3135 (E-Mail)miyuki-o@town.isawai.wate.jp</p> <p>人口 18,000人(出生数 140人)</p> <p>母子保健担当者：保健師、全保健師数7人(母子保健担当保健師数1人)</p> <p>区分：市町村(保健センター等)</p>	
事業課題	<p>■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ(栄養・食生活の改善・身体活動・運動の推進・歯の健康の推進)</p>
事業の背景	<p>当町における子ども歯有病者率は近隣市町村に比較して高い。歯は生活習慣に大きく関係していることや子どもだけでなく家族や地域の環境にも影響を受けやすいことを考え、平成13年度に「健康いさわ達者の里21プラン」を策定し、歯の健康づくりを重点事業に掲げ目標を指標化した。目標達成のため、町内でも小学校における歯有病者率の高い地区をモデル地区に設定し、重点的に活動を推進していくことが必要と考えた。</p>
提案者	母子保健担当者
事業のねらい・目標	<p>モデル地区の住民が、歯の健康について考える機会を持つことにより、知識が増え、意識の向上が図れ、行動変容ができることを目標にする。</p> <p>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</p> <p>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</p> <p>■住民が健康のために、より積極的な活動を継続できるように支援する</p>
数値目標	数値目標あり
事業対象	幼児 学童 成人(父親 母親) 高齢者
実施期間	平成14年4月～平成17年3月 3年計画
協力機関	保育園 幼稚園 学校 教育委員会 病院 地域のボランティア その他(公民館)
住民参画状況	実施主体側として
従事者内訳	保健師 栄養士 看護師 歯科医師 歯科衛生士 保育士 養護教諭 その他(地域の役員：民生委員、区長、教育実践班長、老人クラブ会長、保健員、食生活改善推進委員、ボランティア)
補助金・助成金	都道府県

<p>平成14年度： モデル地区の保育園児・小学生の保護者を対象に意識調査を実施。 地域のふれあいサロンに出向き歯科健診・相談を実施し意識啓発を行う。(成人・高齢者対象)地域の祭事に歯科相談所を開設。</p> <p>平成15年度： 地域の祭事でむし歯のない子を紹介。(小・中学生) 地域の教育振興活動と一緒に歯の健康づくり教室※を開催。(幼児・小学校の親子対象) 保育園、小・中学校との連絡会強化。 地区公民館で歯科講演会を開催。 ※歯の健康づくり教室：砂糖量の確認(ジュース作り体験)、位相差顕微鏡を使用し口腔内チェック、咬合カチエック、染め出しとブラッシング</p> <p>平成16年度： 平成15年度の活動を継続。歯科相談や歯の健康づくり教室の依頼が増加。 3か年モデル地区活動のまとめとして、歯の健康づくり発表会を地区公民館で開催。従事者各々の立場から活動内容を報告する。 保育園：フッ素洗口の実施を計画、噛みごたえある食料を給食に取り入れている。 小学校：虫歯予防標語を募集、入選標語をステッカーにし家庭に配布。夏休み「ノージュースデー」に取り組んだ。 食生活改善推進員：紙芝居の作成(食育含む)、カルシウムの多い料理の普及活動中 ……等</p>	<p>■ネットワークの推進</p> <p>・幼児歯科健診における歯状況、保育園・小学校・中学校での歯科健診における子どもの歯状況、成人歯科健診における歯周病疾患の状況、モデル地区での意識調査(活動前・活動後) ※数値評価については下記参照</p> <p>・歯の健康づくりの取り組みと行動変容(個人、家庭、保育園、学校、地域、行政)</p> <p><目標> 幼児期、学童期のむし歯をもたない子を増やす。</p>																								
<p>実施内容</p>	<table border="1"> <tr> <td>指標の目安</td> <td>基準値(H13年度)</td> <td>H16</td> <td>H22(目標年次)</td> </tr> <tr> <td>1歳6か月児</td> <td>97.8%</td> <td>97.6%</td> <td>95%以上</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>87.3%</td> <td>93.6%</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>2歳6か月児</td> <td>68.9%</td> <td>85.5%</td> <td>80%以上</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>42.9%</td> <td>60.5%</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>12歳児</td> <td>10.5%</td> <td>19.9%</td> <td>40%以上</td> </tr> </table>	指標の目安	基準値(H13年度)	H16	H22(目標年次)	1歳6か月児	97.8%	97.6%	95%以上	2歳児	87.3%	93.6%	90%以上	2歳6か月児	68.9%	85.5%	80%以上	3歳児	42.9%	60.5%	70%以上	12歳児	10.5%	19.9%	40%以上
指標の目安	基準値(H13年度)	H16	H22(目標年次)																						
1歳6か月児	97.8%	97.6%	95%以上																						
2歳児	87.3%	93.6%	90%以上																						
2歳6か月児	68.9%	85.5%	80%以上																						
3歳児	42.9%	60.5%	70%以上																						
12歳児	10.5%	19.9%	40%以上																						
<p>事業の評価</p>	<p>・今後も活動を継続、支援する。 ・モデル地区活動の内容を町内全地区に広め、歯の健康づくり活動を実施し、ネットワークを強化する。</p>																								
<p>今後の課題</p>	<p>取り組みの事業に関するホームページ</p>																								